

2026年3月期 通期決算説明資料

コージンバイオ株式会社

証券コード：177A

AGENDA

- 01 エグゼクティブサマリー p.3
- 02 2026年3月期通期 決算概要 p.11
- 03 業績予想 p.18
- 04 成長戦略 p.21
- 05 Appendix p.30

01 エグゼクティブサマリー

未来の医療発展に貢献するバイオテクノロジー企業 「細胞培養用培地」の開発・製造技術の国内トップランナー

領域

成長市場である
再生医療市場

事業

再生医療・創薬の
インフラである
「培地」の製造・活用

特徴

「培地の開発・製造・販売」を
ワンストップで対応
国内最大の
培地メーカー

「培地」は、細胞の培養・加工に**必要不可欠な製品**であり、**市場の拡大に比例し需要が増加**
大学や研究機関と取り組む**共同研究などの実績**を積み重ね、**更なる飛躍の実現**



市場

「培地」は細胞の培養・加工に必要不可欠な製品

当社

細胞培養用培地の開発・製造
国内トップクラスの実績

細胞培養用培地の「研究・開発・製造・販売」のワンストップサービスが可能

世界の競合企業と遜色ない強力な製品群・他にない製品開発力で更なるシェア拡大を目指す



2026年3月期は、新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス関連製品の伸び悩みや、外国人患者の減少に伴う受託件数減少により、売上高・利益共に前期比・予算比を下回る結果となった。

売上高

4,939百万円

YoY -5.1%

営業利益

341百万円

YoY -65.5%

経常利益

340百万円

YoY -68.0%

親会社株主に帰属する 当期純利益

251百万円

YoY -68.4%

セグメント別 売上高

組織培養事業

安定的
に成長

2,539百万円

YoY +11.9%

細胞加工事業

974百万円

YoY -15.6%

微生物事業

1,424百万円

YoY -20.1%

国内及び中国での再生医療市場における**培地需要の高まりは継続**しており、組織培養事業は売上・利益増加し当社グループの成長を牽引。一方で、抗原キットの販売不振・受託売上の減少により、微生物事業・細胞加工事業は売上・利益共に減少。

2026年3月期の業績比較

単位：百万円	2026年3月期	2025年3月期	前年同期比	2026年3月期 4Q(3カ月)	2025年3月期 4Q(3ヶ月)	前年 四半期比
売上高	4,939	5,206	△5.1%	1,147	1,282	△10.6%
組織培養事業	2,539	2,268	+11.9%	617	574	+7.4%
細胞加工事業	974	1,155	△15.6%	190	250	△23.8%
微生物事業	1,424	1,781	△20.1%	339	457	△25.9%
営業利益	341	991	△65.5%	△46	315	—
組織培養事業	946	765	+23.7%	207	178	+16.3%
細胞加工事業	79	313	△74.5%	△18	52	—
微生物事業	△94	441	—	△79	216	—
経常利益	340	1,065	△68.0%	△44	324	—
当期純利益	251	794	△68.4%	△28	277	—

各セグメントの2026年3月期推移

組織培養事業

再生医療市場の成長は順調に推移し当社グループも売上増加



細胞加工事業

日中関係の悪化の影響で受託件数減少し売上・利益とも減少



微生物事業

抗原検査キット販売不振により売上・利益減少



グローバルな事業拡大に向けて「工場の新設」を予定
研究開発企業と技術導入の締結「人工皮膚技術に関する技術導入」
毛乳頭細胞の増殖を促す試薬の新発売「毛乳頭細胞培養用キット」

工場の新設を予定

内容	長崎県大村市へ 立地の申し入れ申請
公表日	2025年7月17日
事業内容	細胞培養用培地の製造工場を長崎県大村市に「長崎工場」として新設予定 中長期的成長戦略の一環として、海外輸出を見据えた交通利便性、BCP観点の考慮、地域産業との連携及び雇用創出強化など、総合的に判断して土地を選定。国内のみならず、アジア諸国への供給も見据える

人工皮膚技術に関する技術導入

内容	人工皮膚技術に関する技術導入 
公表日	2025年8月27日 
事業内容	株式会社オーガンテック 人工皮膚技術に関する技術移転及び特許権使用許諾に係る契約書の締結。技術移転によりオーガンテック社が開発した研究支援用 三次元人工皮膚モデルをコージンバイオが承継、製造・販売を行う。表皮及び真皮に相当する多層構造を有する三次元組織であり、皮膚の形態的・機能的特徴を忠実に再現。実験動物の使用代替えにも貢献可能

【新発売】毛乳頭細胞培養用キット

内容	毛乳頭細胞培養用キット 「KBM OT001」製品の新販売 
公表日	2025年10月10日
事業内容	毛乳頭細胞は、毛根中央部に位置、毛髪の成長と再生において重要な役割を果たす細胞。本製品は毛乳頭細胞の増殖を促す試薬であり、まだ研究試薬のためヒトや動物の治療用製品ではないが、今後期待ができる製品

世界有数企業コーニング社(欧米)との取り組み 「【MOU締結】コーニング社との協業」
 希少な症例に向けた共同開発製品 「【国際学術誌に掲載】APAP研究成果」
 体外診断医薬品の販売 コロナとインフル同時検査可能 「【新発売】抗原検査キット」

【MOU締結】コーニング社との協業

内容	コーニング社(米国)との協業に向けた取り組みのお知らせ
公表日	2025年10月10日
事業内容	コーニング社は、ガラスやセラミックスの材料科学分野における世界有数企業で、中国市場では協業体制を構築。MOU締結により今後は欧州、欧米、東南アジア市場への本格展開を目指す 今後の展望：欧米および東南アジア地域における販売チャネルの共同構築、グローバル市場のニーズに応える製品ラインナップの拡充、国際規格に準拠した製造体制の強化と品質保証

【国際学術誌に掲載】APAP研究成果

内容	「KBMラインチェックAPAP」 国際学術誌に研究成果掲載
公表日	2025年10月27日
事業内容	共同研究成果が、アジア太平洋呼吸器学会、英文学会誌「Respirology」にオンライン掲載。共同開発した新規イムノクロマトグラフィー法を用いて、自己免疫性肺胞蛋白症患者の抗GM-CSF自己抗体を迅速に検出する手法を確立 共同研究：新潟大学大学院 医歯学総合研究科、さいたま赤十字病院 呼吸器内科、GM-CSF吸入推進機構

【新発売】抗原検査キット

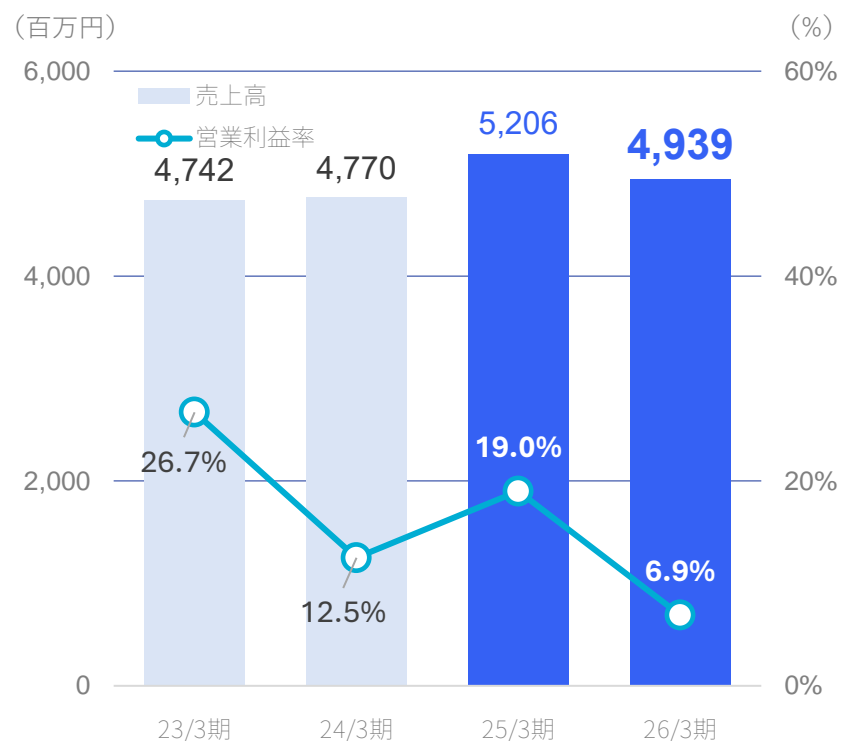
内容	「KBMラインチェック nCoV/Flu II」 抗原検査キット販売
公表日	2026年1月13日
事業内容	順天堂大学 健康総合科学先端研究機構（AMR診断技術開発室）切替照雄特任教授と共同で、SARSコロナウイルス抗原キット・インフルエンザウイルスキット『KBMラインチェックnCoV/Flu II』を体外診断医薬品として開発 新型コロナウイルス、インフルエンザウイルスA型、B型を同時に判別が可能である

02

2026年3月期 決算概要

当期の売上高は前年同期比で5.1%減少の4,939百万円となった。組織培養用培地の売上は好調に推移したものの（前年同期比117.9%）、体外診断薬販売（前年同期比48.2%）や細胞加工受託売上（前年同期比80.7%）が大きく減少した。

売上高と営業利益率の推移



	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (年初業績予想)	2026年3月期 実績	前年同期比	年初予想比
単位：百万円					
売上高	5,206	5,679	4,939	△5.1%	△13.0%
売上総利益	2,366	-	1,857	△21.5%	-
売上総利益率	45.4%	-	37.6%	△7.8pt	-
営業利益	991	1,065	341	△65.5%	△67.9%
営業利益率	19.0%	18.8%	6.9%	△12.1pt	△11.8pt
経常利益	1,065	1,135	340	△68.0%	△70.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	794	822	251	△68.4%	△69.5%

再生医療市場の継続的な拡大により、**組織培養事業は順調に成長**。細胞加工事業は、日中関係の冷え込みにより細胞加工受託件数が減少、微生物事業もドラッグストア向け体外診断薬の販売に苦戦。

組織培養事業

事業状況



KBM製品（幹細胞用培地他）の需要増により売上増加、**中国市場**も好調に推移。

売上高

2,539百万円

前年同期比：111.9%

セグメント利益

946百万円

前年同期比：123.7%

細胞加工事業

事業状況



細胞加工受託件数の減少により売上減少。細胞加工関連製品の販売も苦戦続く。

売上高

974百万円

前年同期比：84.4%

セグメント利益

79百万円

前年同期比：25.5%

微生物事業

事業状況



新型コロナウイルス抗原検査キットの売上減少、及び終売製品に係る在庫廃棄損を計上。

売上高

1,424百万円

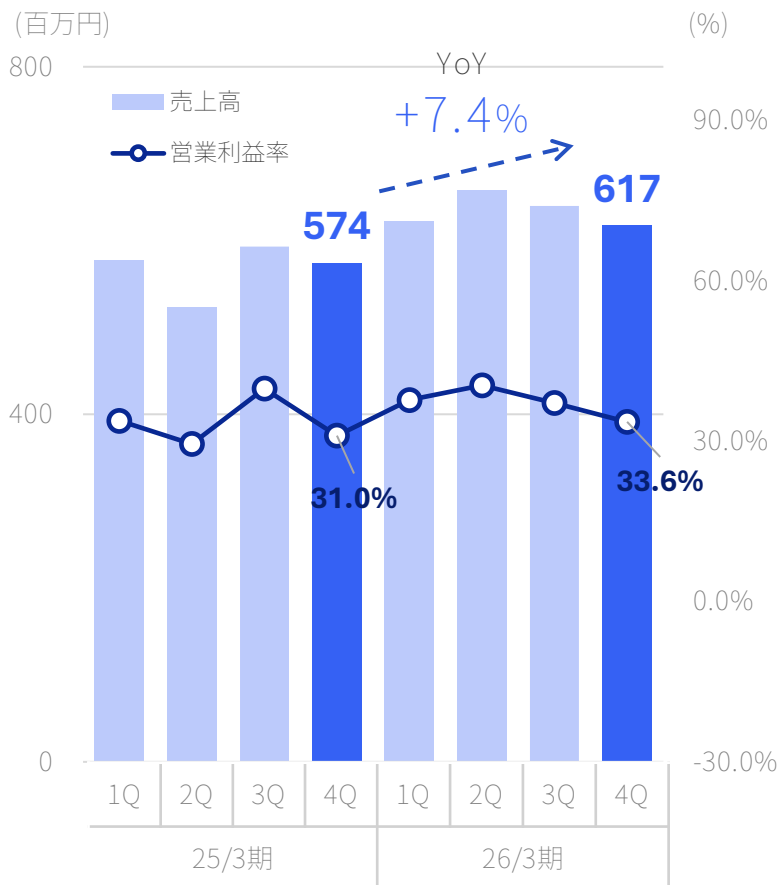
前年同期比：79.9%

セグメント利益

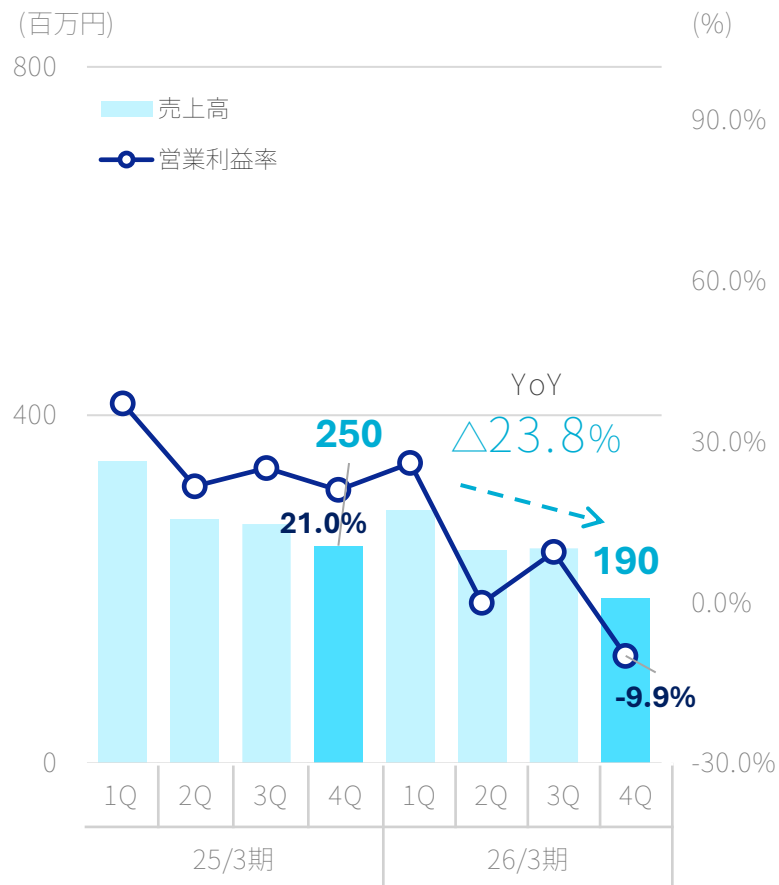
▲94百万円

前年同期比：－%

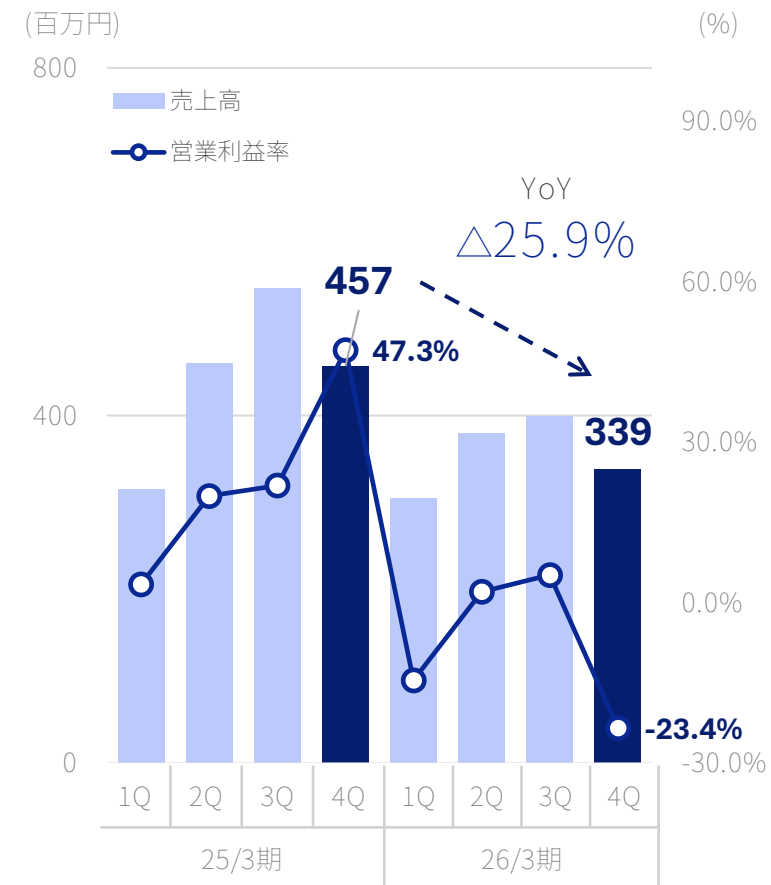
組織培養事業



細胞加工事業

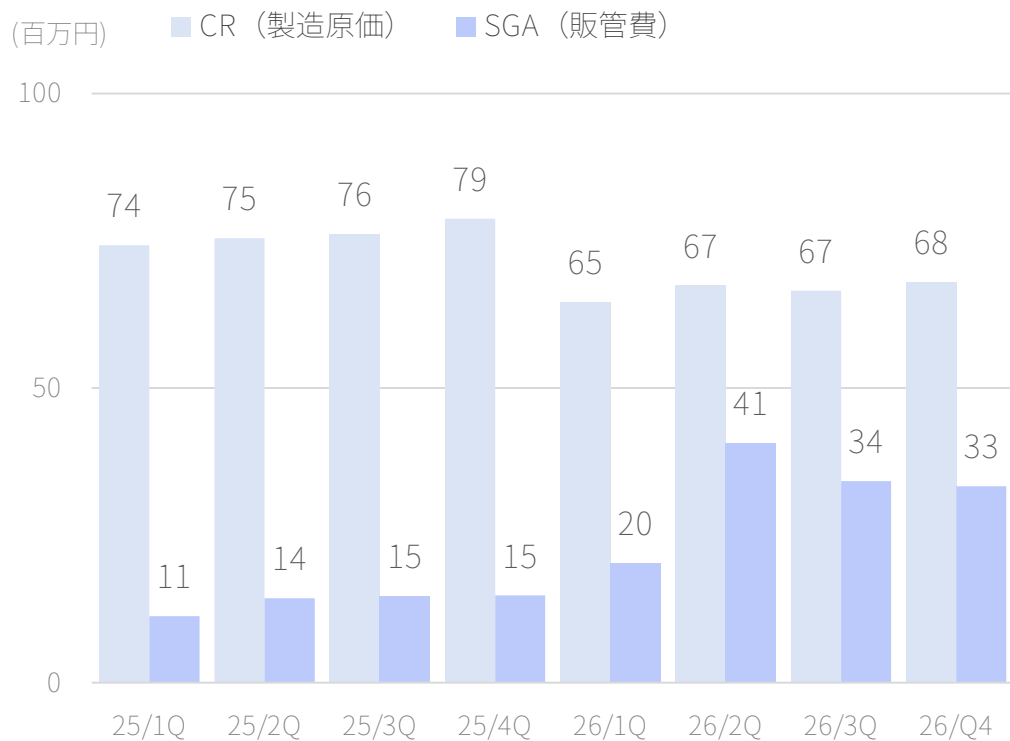


微生物事業

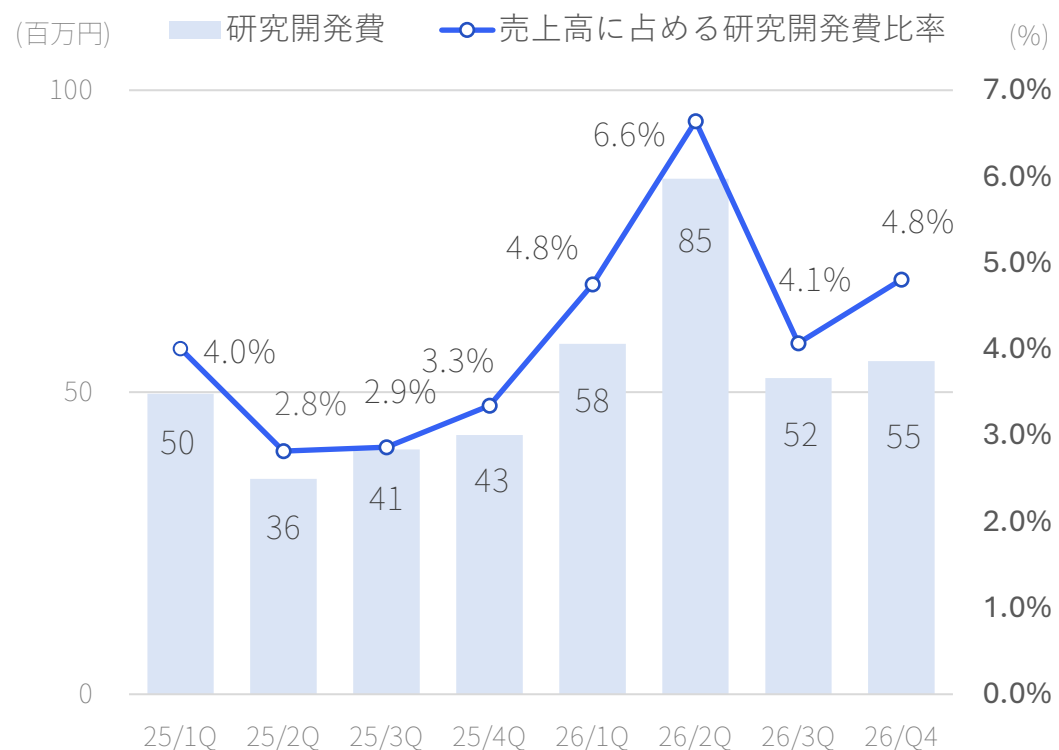


製造原価の減価償却費は減少した一方、新棟の稼働による減価償却開始により販管費は増加。
 研究開発投資も、京都大学/KBBMとの共同研究やオガネック社に対するライセンス獲得もあり売上高に占める
 研究開発費率は増加傾向。

減価償却費 (CR・SGA) の推移



研究開発費及び売上高に占める研究開発費率の推移



設備投資の支払いに充てたことで、現金預金が減少し固定資産が増加。

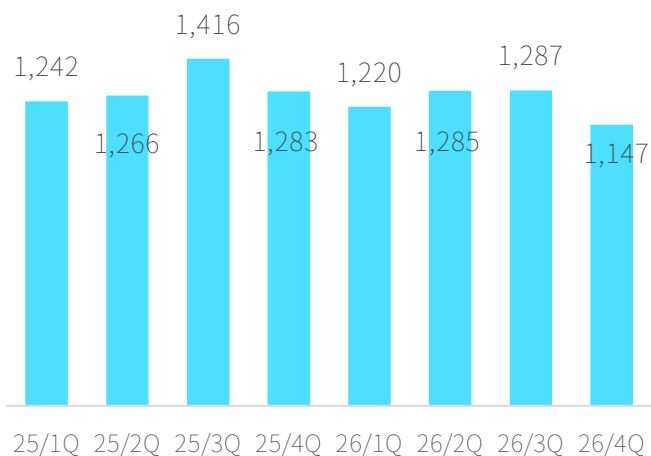
連結貸借対照表

単位：百万円	25.3期末	26.3期末	
		実績	増減
流動資産	5,066	4,268	△ 798
現金預金	3,149	2,486	△ 663
営業債権	986	682	△ 304
在庫	880	871	△ 8
固定資産	3,999	4,636	+ 636
有形&無形固定資産	3,280	3,817	+ 536
投資その他の資産	718	819	+ 100
流動負債	2,487	2,369	△ 117
営業債務	209	183	△ 25
短期借入金	1,500	1,500	-
長期（1年以内）借入金	150	150	-
固定負債	797	589	△ 207
長期借入金	375	225	△ 150
純資産	5,781	5,945	+ 163
負債純資産	9,066	8,904	△ 162

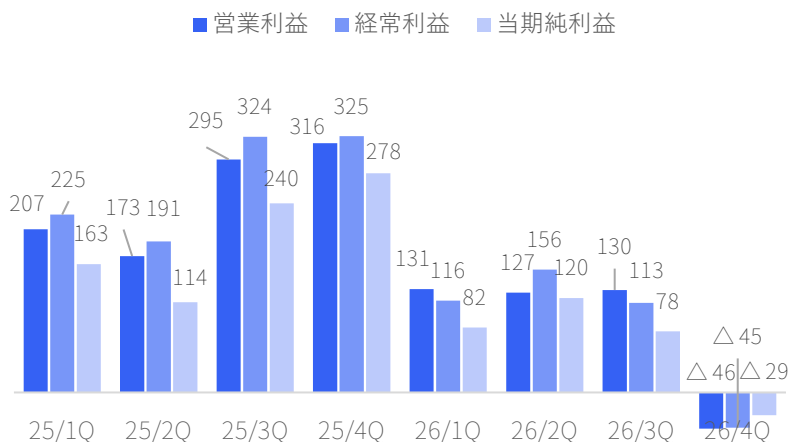
連結キャッシュ・フロー計算表

単位：百万円	25.3期	26.3期	
		実績	増減
営業活動CF	915	698	△ 217
投資活動CF	△ 1,090	△ 867	+ 223
財務活動CF	1,376	△ 320	△ 1,696
当期増減	1,222	△ 463	△ 1,685
期末残高	2,949	2,486	△ 463

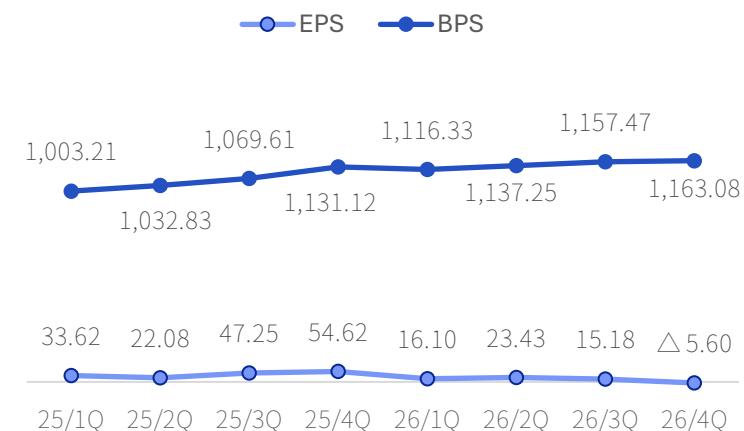
売上高 (百万円)



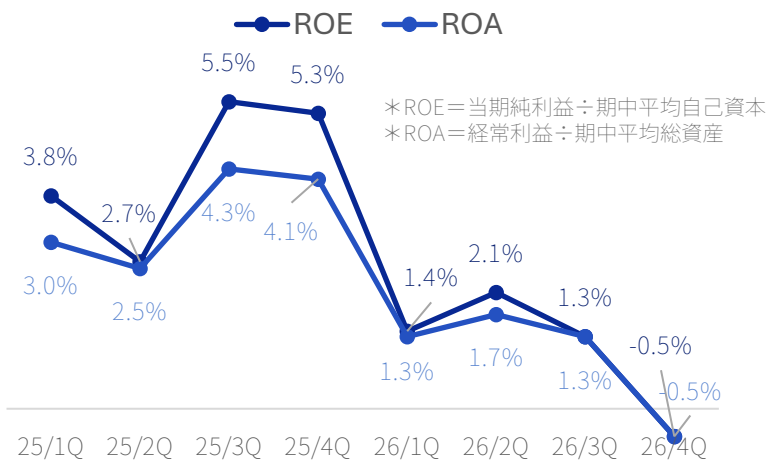
利益 (百万円)



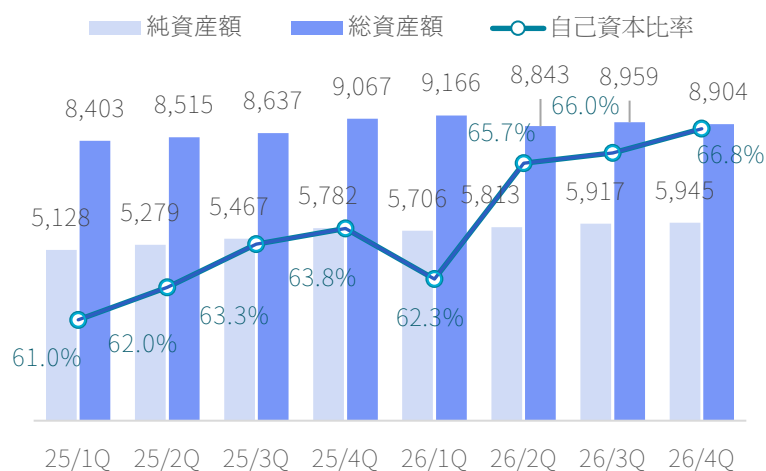
EPS BPS (円)



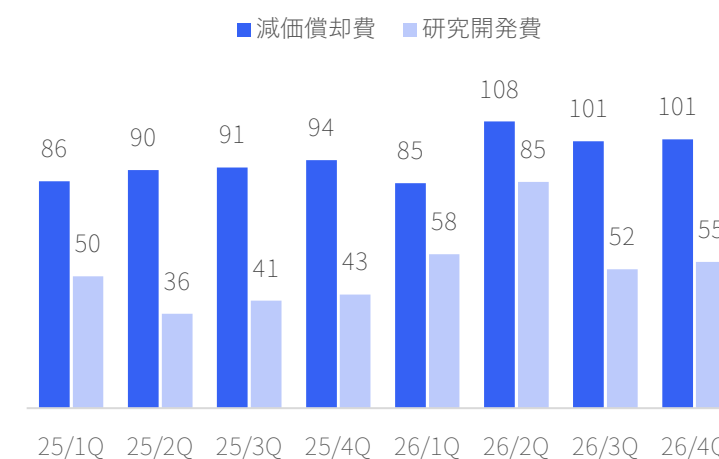
ROE ROA (%)



純資産額、総資産額、自己資本比率 (百万円、%)



減価償却費、研究開発費 (百万円)



03 業績予想

再生医療市場の成長に伴う細胞培養用培地需要の拡大が続く見込み。

他方、日中関係の不透明感から細胞加工受託件数減少等により前期比減収・減益を予想。

売上高と営業利益率の業績予想



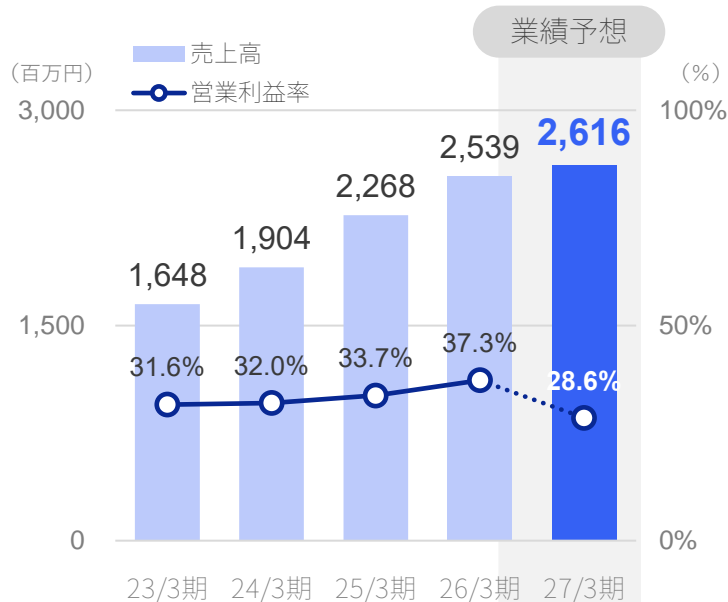
配当の業績予想

単位：円	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 (予想)
年間配当金	24	10	10
配当性向 (連結)	15.2%	20.4%	46.2%

	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (業績予想)	前期比
単位：百万円			
売上高	4,939	4,722	△4.4%
注力 組織培養事業	2,539	2,616	+3.0%
細胞加工事業	974	783	△19.6%
微生物事業	1,424	1,322	△7.2%
営業利益	341	137	△59.8%
注力 組織培養事業	946	747	△21.0%
細胞加工事業	79	△58	—
微生物事業	△94	11	—
親会社株主に 帰属する当期純利益	251	110	△55.9%

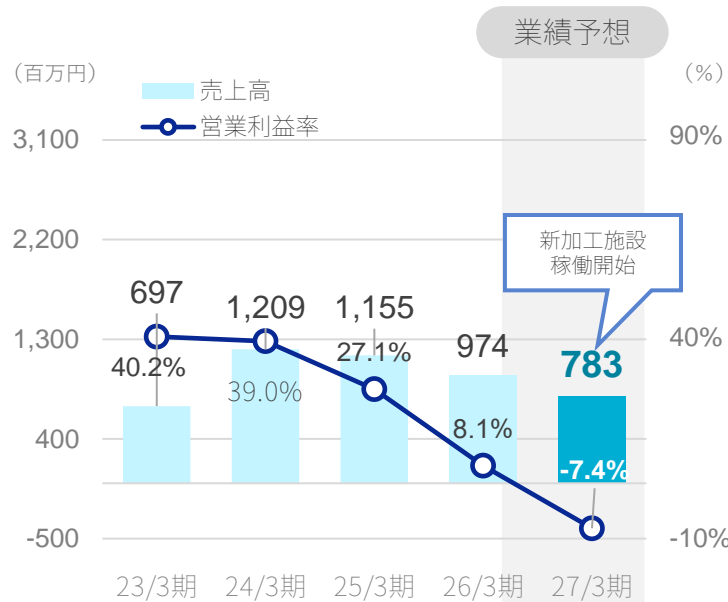
細胞培養用培地は好調に推移するが、原材料費等の高騰を見越し減益を予想。細胞加工受託数は減少、微生物事業は培地売上は微増を見込むものの体外診断薬売上は減少を予想。

組織培養事業



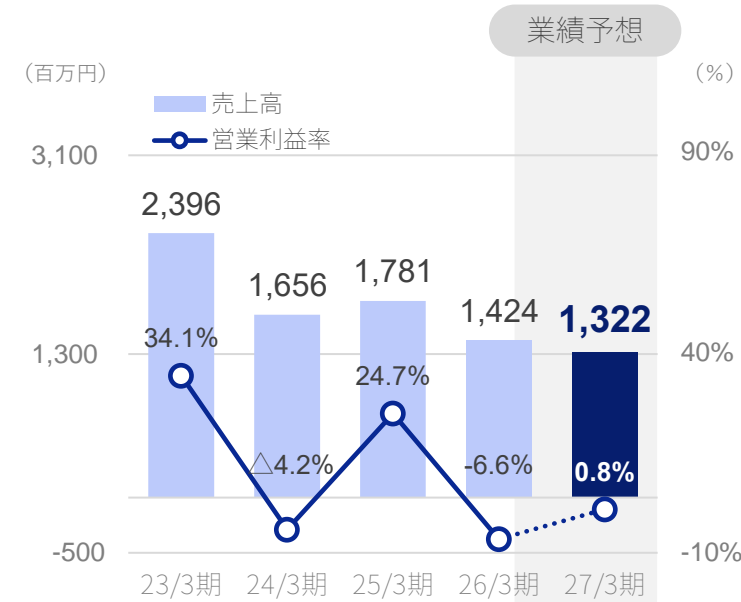
単位：百万円	2027年3月期予想	YoY
売上高	2,616	+3.0%
セグメント利益	747	-21.0%

細胞加工事業



単位：百万円	2027年3月期予想	YoY
売上高	783	-19.6%
セグメント利益	△58	—

微生物事業



単位：百万円	2027年3月期予想	YoY
売上高	1,322	-7.2%
セグメント利益	11	—

04 成長戦略



1

差別化戦略による、
高い顧客満足度

2

日本品質とコスト
対応力を実現する、
垂直統合モデル

3

積み上げた
研究機関・企業との
ネットワーク

多種多様な製品を安定供給し続けて構築した、コージンバイオブランド

他にない開発力

細胞培養用培地
細菌検査用培地
特注品・OEM対応



- 大ロットが不要な場合や研究費抑制意向にも沿った対応

- 製品を安定供給
- GMP (Good Manufacturing Practice)
「医薬品の製造管理及び品質管理の基準」に準拠した培地製造工場

- 40年を超える豊富な培地製造実績
- 大学や研究機関、企業との共同開発を重ね、ノウハウを蓄積

アジアを足掛かりに、グローバル産業用市場へ挑戦

再生医療向け培地

研究から臨床応用へ幅広く展開

- 幹細胞、免疫細胞、その他正常細胞用培地の開発および改良
- 顧客ニーズに対応した培地カスタマイズ

アジア
No.1

グローバル
細胞培養市場

当社の成長ポテンシャル

日本品質	国内生産
製造技術	供給実績
特注品対応	コスト対応力

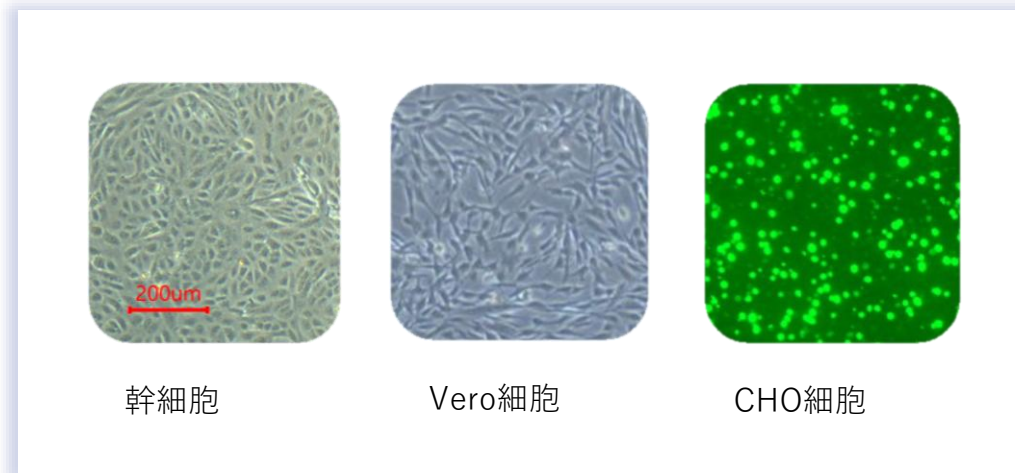
日本国内、アジア圏の
バイオ医薬品事業への参入を計画

- CHO細胞、HEK293細胞の開発及び上市
- 生産設備への投資を実施

抗体医薬品向け培地

- ◆開発から製造、販売までをワンストップで対応できる強みを活かし、種々の細胞に合致する製品の供給と、新たなニーズに沿う製品を開発することで、アジアNo.1の培地製造会社を目指す
- ◆アジア圏を中心に再生医療の市場が創出されており、高品質、安定供給の日本製品を流通させるために各国に販売代理店網を構築
- ◆再生医療や遺伝子治療、バイオ医薬品などの研究開発が活発に行われており、臨床試験数が増加している。
開発品が上市（治験から実用化）へと進むことによって、グローバルでの市場拡大が続くため、細胞培養用培地の消費量も増加しており、それぞれの需要に応じる製品を供給していく

グローバル市場をターゲットとした製品開発



幹細胞やバイオ医薬品に使用される培地等の開発

- ◆グローバル市場にてニーズの高まっているバイオ医薬品等の製造に使用される培地を中心に開発を実施。
- ◆販売中である幹細胞、免疫細胞培養用の培地、および付随する製品群も市場のニーズに沿った改良を加えて行く。

地球規模で問題視される感染症の撲滅に向けた製品開発に加え、希少疾患を検出可能なキット開発も実施



感染症の医療用抗原検査キットの開発



SARSコロナウイルス抗原・
インフルエンザウイルス抗原検査キット（2026年1月上市）



肺胞蛋白症（希少疾患）検出キット（2024年11月上市）



一般消費者向けの検査薬の開発品目の拡大

出所）公益社団法人日本WHO協会

抗原検査キット（イムノクロマト）

設備や機器、電源を必要とせず簡易な操作でありながら、短時間で検査結果が得られることから、アフリカや東南アジアなど途上国への展開が期待される

- ◆現在実施している特定細胞加工物に加え、再生医療等製品の製造受託に参入することで、この両輪を回し、研究開発から産業化まで対応が可能な高品質、高水準の細胞加工受託業者の地位を確立
- ◆細胞加工事業のニーズに応じて特定細胞加工物製造用CPC拡大（広島CPC開設、2024年7月製造許可取得）
- ◆再生医療等製品の臨床試験用細胞の製造受託

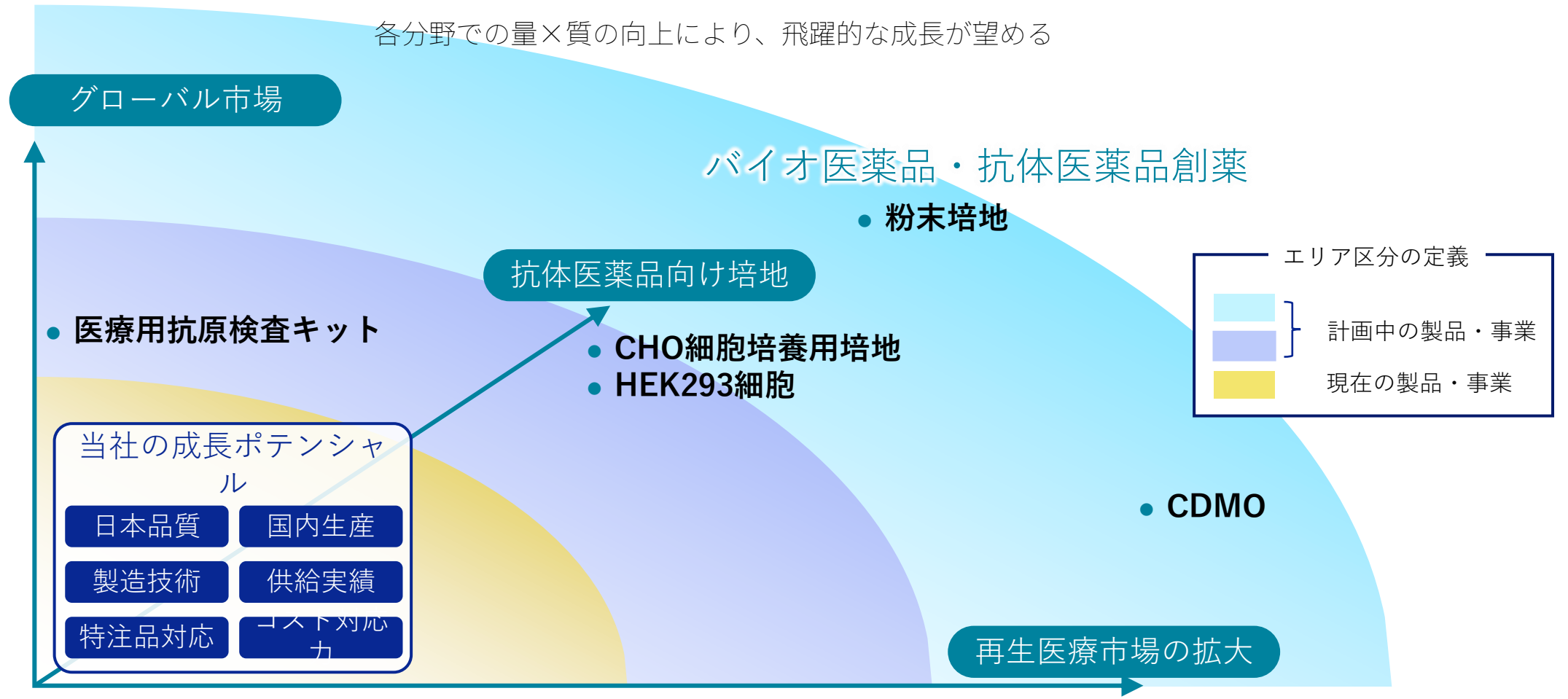
広島に開設したCPCの内部



中長期の成長イメージ

研究開発用途から、臨床用途へ

- 生産用の大口市場
- 細胞加工



05 Appendix

動物血液の販売から始まり、培地の開発・製造販売を経て、細胞加工に展開

- 1981年4月 動物血液・細菌検査用培地の製造、販売を目的にコージン（株）を設立
- 1986年4月 細胞培養用培地の製造を開始
- 1989年6月 コージンバイオ（株）に商号変更
- 1993年11月 「体外診断用医薬品製造業・製造販売業」許可を取得し、
体外診断用医薬品の製造を開始
- 2005年2月 「化粧品製造業・製造販売業」許可を取得、化粧品の製造を開始
- 2009年1月 「医療機器製造業・製造販売業」許可を取得
- 2013年3月 エンバイオ（株）の全株式を取得し完全子会社化
- 2014年5月 中国上海に高金生物科技（上海）有限公司を設立
- 2015年7月 （株）ピルムの全株式を取得し完全子会社化
（株）ピルムにて「特定細胞加工物製造許可（施設番号FA3150006）」を取得
- 2018年6月 味の素（株）との合併会社味の素コージンバイオ（株）を設立
- 2019年8月 連結子会社であった（株）ピルムを吸収合併
- 2024年4月 東京証券取引所グロース市場上場

再生医療関連のイベント

1999年 薬事法に確認申請制度導入
 2001年 日本再生医療学会発足
 2003年 日本でヒトES細胞樹立

2006年 マウスiPS細胞樹立
 2007年 日本・米国でヒトiPS細胞樹立

2012年 山中教授ノーベル賞受賞
 2014年 再生医療等の安全性の確保
 等に関する法律施行

国内6拠点、アジア2拠点を展開

アジア



高金生物科技(上海)有限公司
中国上海市金山工業区夏寧路
818号弄聯東U谷38-39

孝仁生物控股(香港)有限公司
香港新界特湾海盛路11号
ONE MIDTOWN 13楼01室

香港

上海

福岡

大阪

東京・埼玉
名古屋

日本

コージンバイオ株式会社 (本社)
埼玉県坂戸市千代田5-1-3

東京オフィス
東京都豊島区西池袋1-11-1
メトロポリタンプラザビル11F

大阪オフィス
大阪府大阪市淀川区西中島5-11-10
第3中島ビル10F

福岡オフィス
福岡県福岡市博多区博多駅東2-4-30
いわきビル606号

名古屋オフィス
愛知県名古屋市中区伊勢山2-5-10
中埜金山ビル 801号室

味の素コージンバイオ
(コージンバイオ本社敷地内)

エンバイオ株式会社
東京都品川区東五反田2-5-2 カスク五反田806

